資料４

第 11 回火山防災協議会等
連絡会資料

令和６年７月 25 日
北海道

火山噴火総合防災訓練

- 道内９つの常時観測火山では、国や道、市町村、公共機関のほか火山専門家等で構成される「火山防災協議会」により、活動火山対策特別措置法に基づいた警戒避難体制の整備等、火山防災対策が進められている。

- 本訓練は、平常時からの噴火災害に対する地域住民の防災意識の向上、防災関係機関相互の連携体制の充実・強化を図ることを目的に実施している。
（北海道地域防災計画（第７章：火山災害対策計画）：道及び周辺市町村が、防災関係機関、住民等と相互に連携して実践的な防災訓練と事後評価を実施する）

- 平成12年の有珠山噴火災害の教訓を踏まえ、平成13年度から常時観測５火山（雌阿寒岳、十勝岳、北海道駒ヶ岳、樽前山、有珠山）の持ち回りで、各火山防災協議会の主催により隔年で「火山噴火総合防災訓練」を実施してきた。

- 令和３年度までに常時観測９火山で避難計画が策定されたこと等を踏まえ、各計画の検証等、火山防災対策の実効性を更に高めるため、**令和４年度以降は、この９火山を対象として、火山防災協議会の主催により毎年「火山噴火総合防災訓練」を実施している**。

火山噴火総合防災訓練

実施状況及び今後の対象火山案

	年度	対象火山	地域	年月日	備考	年度	開催場所	地域	年月日	備考	
一巡目	H13	北海道駒ヶ岳	渡島	H13.10.14		R1	北海道駒ヶ岳	渡島	R01.09.27		現ローテ
	H14	有珠山	胆振	H14.10.16		R3	有珠山	胆振	R03.10.15		
	H15	雌阿寒岳	釧路、十勝、オホーツク	中止	十勝沖地震のため	R4以降毎年開催					
	H16	樽前山	胆振、石狩	H16.10.05		R4	大雪山	上川	R04.10.12		
	H17	雌阿寒岳	釧路、十勝、オホーツク	H17.07.14	H15年度の振替	R5	雌阿寒岳	釧路、十勝、オホーツク	R05.10.24		
	H17以降隔年開催					R6	樽前山	胆振、石狩	R07.01.22（予定）		
	H19	十勝岳	上川、十勝	H20.02.21～22		R7	恵山	渡島			
二巡目	H21	北海道駒ヶ岳	渡島	中止	サモア沖地震による津波注意報のため	R8	アトサヌプリ	釧路、オホーツク			
	H23	有珠山	胆振	H23.10.25		R9	倶多楽	胆振			
	H25	雌阿寒岳	釧路、十勝、オホーツク	H25.08.23		R10	十勝岳	上川、十勝			
	H27	樽前山	胆振、石狩	H27.08.21		R11	北海道駒ヶ岳	渡島			以降、繰り返し
	H29	十勝岳	上川、十勝	H30.02.21～22		R12	有珠山	胆振			

＜R6以降の検討にあたっての留意事項等＞

■同じ地域（振興局）が連続にならないように検討。

■正式決定は道の当該年度予算が成立した後。

■今後の火山活動の状況等により、順番の変更を検討。

令和５年度　雌阿寒岳火山噴火総合防災訓練

目　的	①　「雌阿寒岳火山防災計画」の検証 ②　防災関係機関の災害対応能力の向上 ③　防災関係機関相互の連携強化 ④　住民等の火山防災知識の向上と防災意識の普及啓発	
主　催	雌阿寒岳火山防災協議会	
日　時	令和５年10月24日（火）８:30～15：30	
場　所	釧路市（実動訓練及び図上訓練）、足寄町（実動訓練）	
参加機関等	①　雌阿寒岳火山防災協議会構成機関　②　地元住民 ③　学識経験者　等	
想　定	○　雌阿寒岳で噴火が発生し、噴火警戒レベル２の状況からレベル３・レベル４に段階的引上げ ○　周辺住民の避難や観光客・登山客の避難誘導など災害応急対策を要する状況	
訓練内容	**情報伝達・初動体制等構築訓練**	○　噴火警戒レベルの引上げを迅速に各構成機関へ伝達 ○　各構成機関において噴火警戒レベルに応じた防災体制を構築
	実動訓練	○　入山規制への対応や避難情報の発信・避難行動の支援 ○　避難所の開設・避難者の受入れ ○　住民等を対象とした防災講話 ○　ヘリコプターによる雌阿寒岳噴火状況等の観測（学識経験者）
	雌阿寒岳火山防災協議会 情報連絡本部会議訓練	○　火山活動及び火山防災対策に係る状況の共有 ○　災害対策現地合同本部の設置について協議
	図上訓練	○　図上シミュレーション訓練（ロールプレイング方式）の要素を含めた災害図上訓練（DIG） ○　各噴火警戒レベルに応じた防災組織（情報連絡本部、災害対策本部、災害対策現地合同本部等）を編成し、状況付与に対する災害応急対策を関係機関等と調整・検討

令和５年度　雌阿寒岳火山噴火総合防災訓練

【実動訓練（避難所の開設・避難者の受入れ）】　住民　約40名参加

（釧路市）
阿寒湖まりむ館

- 感染症対策を講じた避難所を開設
- 計画に基づく住民避難
- 気象台職員による防災講話の実施

令和５年度　雌阿寒岳火山噴火総合防災訓練

【実動訓練（情報連絡本部会議訓練）】

- Web会議を併用した構成機関による会議を開催
- 火山活動及び火山防災対策に係る情報共有や災害対策現地合同本部の設置について協議

令和５年度　雌阿寒岳火山噴火総合防災訓練

【図上訓練（DIG）】　関係機関　約60名参加

- 各噴火警戒レベルに応じた防災組織を編成し、状況付与に対する災害応急対策を関係機関と調整・検討

＜状況付与の例＞

- 住民からの救助要請
- 避難所からの応援要請
- 関係機関応援等調整
- 降灰による交通障害対応　　など

令和５年度　雌阿寒岳火山噴火総合防災訓練の成果・課題

成果	●　災害図上訓練（DIG）方式の訓練により、火山防災計画に基づく**関係機関それぞれの災害応急対策について、段階的かつ視覚的に確認**し、**問題点、処置・対策等について、関係機関と認識を統一**。 ●　状況付与内容をあらかじめ提示することで、関係機関ごと**災害応急対策について事前研究する時間を確保**。 ●　北海道防災情報システム活用の普及。 ●　訓練実施要領説明時及び振り返り時に、**ファシリテーターから状況付与のねらい等について助言し、関係機関の災害対応能力を向上**。
課題	●　**現地災害対策合同本部の編成の検討、役割分担等の更なる具体化**が必要。 ●　勉強会等を毎年継続するほか、数年に１度はレベル５までの図上訓練を実施することが必要。 ●　**実動訓練と図上訓練を同日で実施した場合、それぞれの噴火シナリオに基づく想定が乖離**するので、別日で実施することも検討。 ●　**噴火シナリオに基づき**、それぞれの**時系列に応じた具体的な対応要領（５Ｗ１Ｈ等）の検討**が必要。 ●　**入山禁止看板の多言語化**が必要。

令和６年度　樽前山火山噴火総合防災訓練　実施要領

目　的	①　樽前山の火山防災に関する諸計画の検証 ②　防災関係機関の防災対応能力の向上 ③　防災関係機関相互の連携強化 ④　住民等の火山防災知識の向上と防災意識の普及啓発	
主　催	樽前山火山防災協議会	
日　時	令和７年１月22日（水）	
場　所	苫小牧市及び樽前山火山防災協議会構成市町村（実動訓練及び図上訓練）　※調整中	
参加機関等	①樽前山火山防災協議会構成機関　②地元住民（避難促進施設関係者）等　③有識者　等　※調整中	
訓練想定	積雪期における樽前山での中規模噴火期のシナリオのうち、とくに中規模噴火前兆期	
訓練内容（予定）	情報伝達訓練・情報発信訓練	○　シナリオに応じて各機関が行った対応を関係者間で伝達・共有 ○　避難区域の決定や通行止め情報、通勤通学者への情報発信等
	各町災害対策本部と連携した北海道災害対策現地合同本部設置・運営訓練	○　ロールプレイング方式による図上訓練（リアルタイムハザードマップの活用） ○　広域避難、通行規制、応援要請等の図上訓練の実施 ○　救出・救助活動に必要な情報収集・分析及び調整・検討
	関係機関合同会議訓練	○　道及び各市町災害対策本部等の合同会議（Web会議）
	住民等避難訓練	○　樽前地区の要配慮者の避難訓練等
	火口状況・降灰状況確認訓練	○　ヘリコプターによる噴火状況等の観測 ○　火山活動分析用の降灰調査
	緊急ハード対策検討・実施訓練	○　泥流等による被害を減少するための緊急工事等の必要性検討
その他	○　本訓練は公開 ○　災害発生によって訓練の中止・縮小の可能性有 ○　訓練実施までに訓練参加機関による調整会議を開催	